



## 手のひらサポート（療養費給付事業） 第1回給付について

3・11甲状腺がん子ども基金は12月1日から、東京電力福島第一原子力発電所事故以降に甲状腺がんと診断された子どもへの経済的な支援を行う「手のひらサポート」事業を開始しました。

昨年12月26日までに、がん告知を受けた患者や家族から資料請求があったのは、60数件。そのうち、第1回目の給付対象となる15日までの申請数は36件ありました。去る20日に書類の審査を行い、35人に療養費を給付することを決定しました。年齢は現在10歳から25歳までで、男女比は、男性は14人、女性は21人と、ほぼ1：1.5の割合でした。

なお、10万円の追加給付（計20万円）を受けるRI治療（アイソトープ治療）の適応患者は3人で、いずれも福島県外の患者でした。

### 経過

- 12月1日 受付開始
- 12月15日 第1期第1回目の締め切り
- 12月20日 第1回審査会議 同日給付通知発送
- 12月26日 第1回給付（一部は12月28日）

### 給付状況

申請数：計36件（男15人：女21人）  
給付数：計35件（男14人：女21人）  
年齢：10歳～25歳（2016年12月20日現在）  
原発事故時年齢：5歳～18歳

### 県別の給付状況

宮城県1人、福島県26人、群馬県1人、千葉県1人、埼玉県1人、神奈川県3人、長野県1人、新潟県1人、

#### 給付に際する所見

- (1) 福島県民健康調査では見つからず、自主健診で甲状腺がんが見つかったケースが3例あった。県民健康調査によってがんが見つかったわけではないとの理由で、福島県の「サポート事業」の給付対象外となっている。
- (2) 福島県外の症例は、自覚症状によって受診して発見が遅くなったと思われる子が多く、腫瘍径が大きかったり、肺転移したりと、重症化しているケースが目立った。
- (3) 男性の患者が多い印象。通常、甲状腺がんの発症は男性1：女性7程度とされるが、男性1：女性1.5だった。
- (4) 長期間、手術を待ったり、何度も検査をしながら経過観察が続たりしているケースが目立った。
- (5) 手術後に、疲れやすいなど、体調が悪い子が目立った。
- (6) 個人情報の開示を求めたところ、主治医に怒鳴られたとの訴えがあった。また、患者に検査結果や治療内容を十分に伝えていない病院があることが確認された。
- (7) 治療に伴い、経済的に困窮化している家庭があることが分かった。
- (8) 甲状腺がんであることを、外部に知られることを強く恐れている家族が多数あった。